

社会保険労務士からの三方一両得だより

平成29年 7月20日 第94号

益子のカフェに行ってきました

最近おしゃれな街になったと評判の益子に行ってきました。去年のGWに陶器市の混雑を覚悟の上で益子を目指しましたが、渋滞に嫌気がさして辿り着けなかった際のリベンジです。今回の目標はおしゃれなカフェでランチを食べることのみ。現地の雰囲気を見ながらお店を決めたいので、先入観を持たないためにも下調べはせず適当に車を走らせました。

街中に入ると昔ながらの窯元のお店もたくさんありましたし、そこかしこにおしゃれな雰囲気のお店がありました。ただ交通量もそこそこありますので少し落ち着かないかと思い、周辺部をうろろろしてみると、いい感じのお店が見つかりました。



混んでいたのでもスルーした「starnet」。

中でも特に気に入ったのがパンです。自家製ではなかったのですが、市貝町のアンジュールというパン屋さんに特別にお願いしているようで、本当に美味しかったです。

のんびりと庭を眺めながら美味しい食事をいただいてゆっくりするのはいいものですね。

その名は「Café Funé」(フーネ)。本当にここに入るのかという程細い山道の先にありました。山小屋風の外観できれいな庭があり、靴を脱いで上がるスタイルです。ちょうどテラスの席が空いていましたのでそちらをチョイスしました。カレーと鶏肉のソテーをいただきました。歯ごたえがあつて、とても美味しかったです。



サラダも美味しかったです。



細長いブチトマトも順調です。

我が家の畑

夏野菜の季節が本格的に始まりました。トマト、ピーマン、きゅうり、ナス、オクラがすでに採れました。他にも枝豆、かぼちゃ、坊ちゃんかぼちゃ、メロン、さつまいも、シソが元気に成長中です。例年かぼちゃはほったらかしだったので、摘心(芽を摘む作業)や受粉作業をしつかりやってみました。この手間がきちんと収穫量に反映されるのか、期待しています。

今どきの就活生は「職場の雰囲気」を重視。

人手不足解消のためのアプローチ

厚生労働省によると、4月の有効求人倍率は1.48倍(5月30日発表)。バブル期のピークだった1990年7月(1.46倍)を上回り、1974年2月(1.53倍)以来 **43年2カ月ぶりの高水準**を記録しました。

企業の求人は増加する半面、求職者数が減少しており、企業の「人手不足」は、ますます深刻な問題となっていると言えそうです。

◆就活生は「人」を見ている！

このような状況でも良い人材を確保するために、企業はどのようなことに取り組んでいくべきでしょうか。就活生がどんな点に注目して実際に入社した企業を選択したかが、1つの参考になりそうです

東京商工会議所「中堅・中小企業の新入社員意識調査」(6月6日発表)によると、「入社した会社を選んだ理由は何ですか」との問いに対し、「仕事の内容が面白そう」(44.2%)、「職場の雰囲気が良かった」(39.3%)、「自分の能力・個性が活かせる」(37.0%)が上位となりました。



注目したいのは、4割近くが「職場の雰囲気が良かった」ことを理由に入社企業を選んでいるということです。仕事の内容を変えるのは困難ですが、職場の雰囲気を、明るい、働きやすいものに変えていくことは可能です。

職場の雰囲気が人材確保のために重要であることは、公益財団法人 日本生産性本部「職業のあり方研究会」の調査研究結果からも明らかです同調査では、平成29年入社組の就職活動の特徴として、就職先の条件にパワハラのないことを重視する傾向が見られたとしています。

◆就活生に接する社員の対応が大切

上記のことを踏まえれば、人手不足解消のためのアプローチの1つとして、就活生に接する社員(面接者はもちろん、受付等を行う社員も含む)の対応を見直してみたいものです。

実際、前述の東京商工会議所の調査では、29.6%が「**採用担当者・社員に好感が持てた**」ことを入社理由に挙げています。

まずは、就活生へのこやかな対応、親切な対応を心がけてみましょう。